

群 教 七	G09 - 02
	平27.257集
	英語 - 中

伝えたい情報を正しい英語で 書くことができる生徒の育成

— 「Speaking Drill」の活用を通して—

特別研修員 黛 勲

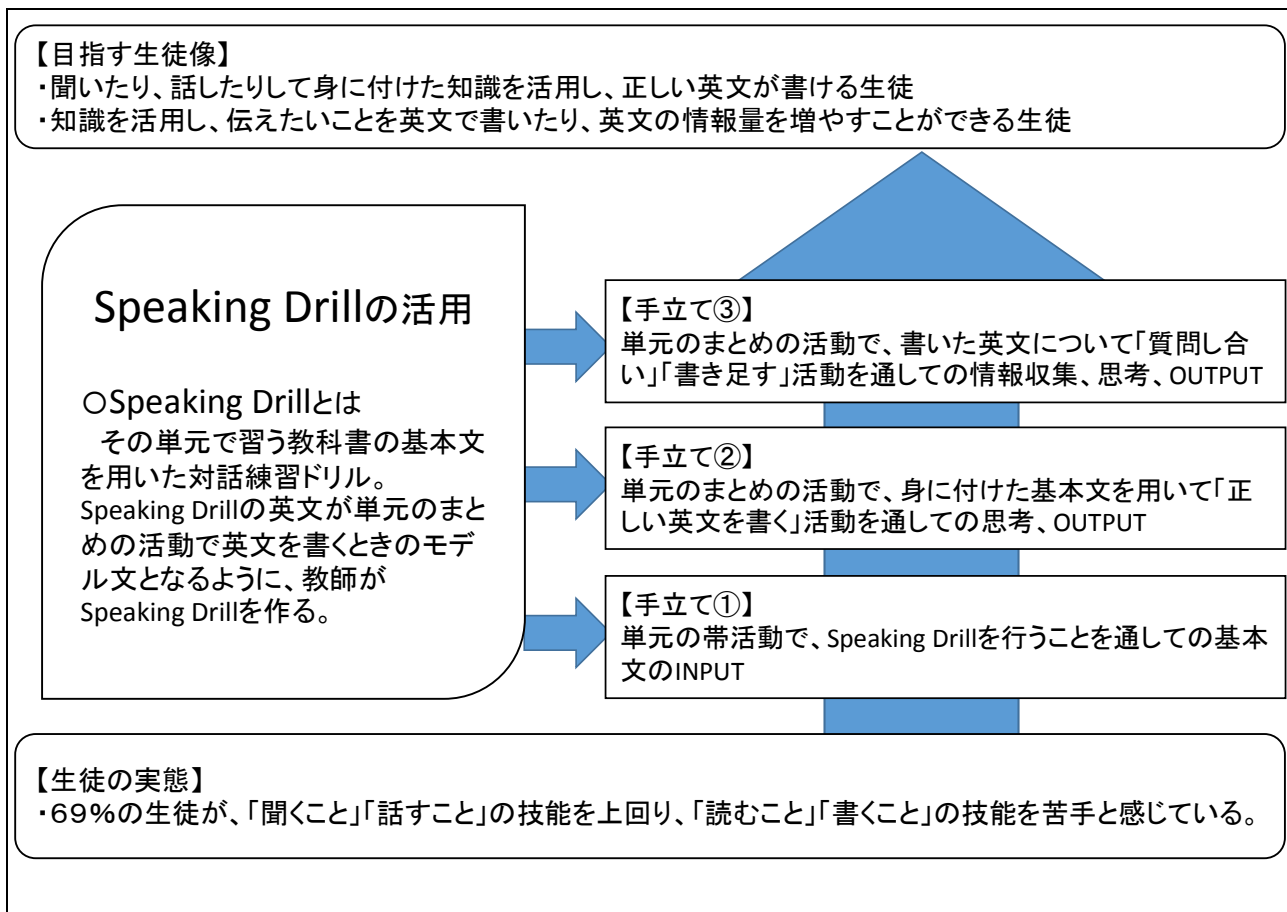
I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語科「改訂の趣旨」の中に、『発信力』や『活用する力』、『書く力』などの育成を重視する観点から、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する」とあり、読み手に自分の考えや気持ちが正しく伝わる英文を書く力を含めた4技能を総合的に育成することが求められている。

本校の生徒の実態を見ると、4月のNRT標準学力検査では、英語を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」がすべて全国平均を上回り、領域間の偏りもなく点数が取れている。しかし、生徒への意識調査では、英語を得意と感じている生徒が少なく、中でも「読むこと」「書くこと」については生徒の69%が苦手と感じており、「聞くこと」「話すこと」を大きく上回る。このような実態を踏まえ、「聞くこと」「話すこと」の活動で得た知識や情報を用いて「書く」活動を行えば、生徒の英語を書く力を効率良く伸ばしていくことができると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) Speaking Drillとは

教科書の基本本文を単元のまとめの活動のモデル文の形に変え、そのモデル文を用いて作った対話練習ドリル。Speaking Drillは、教師が単元ごとに作り、Speaking Drillカードにまとめて生徒に配布する(図1)。

(2) Speaking Drillの活用

① Speaking Drillを用いた帯活動 (INPUT)

帯活動では、教師がSpeaking Drillの英文をセンテンスカードで示し、教師の範読に続いて読む練習をさせる。その後、生徒同士のペアで対話練習をさせて、単元

のまとめの活動に向けて「聞く」「話す」活動で基本本文の定着を図る。センテンスカードで自己表現のヒントを示したり、Speaking Drillカードには、英文の中に自己表現できる部分を下線で示したり、自己表現で活用できるヒントを載せたりして、Speaking Drillで自己表現活動まで行う。

② 「書く」学習活動 (思考、OUTPUT)

Speaking Drillで身に付けた基本本文を活用して、単元のまとめの活動では、テーマに沿った正しい英文を書く。また、英文を書くことが困難な生徒には、Speaking Drillカードを見てその英文を参考にしながら書くことを促す。

③ 「質問し合い」「書き足す」学習活動 (情報収集、思考、OUTPUT)

単元のまとめの活動で作った英文を交換して読み合う。読み手は、さらに知りたい情報を考え、Speaking Drillで身に付けた基本本文を活用して書き手に英語で質問する。読み手からの質問を基に伝えたい情報を考え、英文で書き足す。

III 研究のまとめ

1 成果

- 「聞く」「話す」ことは小学校外国語活動で慣れ親しんでおり、苦手意識が低いいためSpeaking Drillで基本本文の定着を図ってから「書く」活動につなげていったことで、生徒が正しい英文を書くことができた。
- 単元のまとめの活動のモデル文を用いてSpeaking Drillを作り、Speaking Drillで自己表現活動まで行ったことにより、生徒が単元のまとめの活動で書く英文の量が増えた。
- 生徒がSpeaking Drillの英文を活用して、お互いの英作文について質問し合ったり、得た情報を基に英文を書き足して情報量を増やしたりすることができた。

2 課題

- Speaking Drillの英文やヒントが少ないと、その単元で習う基本本文の定着や自己表現力が不十分になり、生徒がまとめの活動で書く英文の量に影響が出る。
- Speaking Drillを活用してお互いの英作文について質問し合うときに、質問やその回答の英語を書かせる量が多すぎてしまい、英作文の情報量を増やす活動に時間がかかり過ぎてしまうことがあった。
- 単元を見通すだけでなく、単元と単元のつながりまでを考えてSpeaking Drillを作成し、前単元までのSpeaking Drillや既習事項を活かしながら「書く」活動を行う必要がある。

Speaking Drill A	
Unit5 My Tokyo Trip	
class ___ No. ___ Name _____	
Question	Answer
<u>What are you going to tell us about?</u> <small>(あなたは私たちに<u>何</u>について話す予定ですか。)</small>	I'm going to tell you <u>about my Tokyo Trip.</u> <small>(私は私の東京旅行についてあなたに話そうと思います。)</small>
<u>Will you go to Asakusa?</u> <small>(あなたは浅草に行くつもりですか。)</small>	Yes, I will. ※ I will <u>go to Asakusa.</u> <small>(はい、行くつもりです。)* (私は浅草に行くつもりです。)</small> No, I will not. ※ I will <u>not go to Asakusa.</u> <small>(いいえ、行くつもりはありません。)* (私は浅草に行くつもりではありません。)</small>
<u>Where will you go?</u> <small>(あなたはどこに行くつもりですか。)</small>	I will go to <u>Sensoji.</u> <small>(私は浅草寺に行くつもりです。)</small>
<u>What will you do when you go to Tokyo Sky Tree?</u> <small>(東京スカイツリーに行ったときにあなたは<u>何</u>をするつもりですか。)</small>	I will see Tokyo from the <u>top of the tower (when I go to Tokyo Sky Tree).</u> <small>((東京スカイツリーに行ったときに) 私はタワーの頂上から東京を見るつもりです。)</small>

図1 生徒に配布されたSpeaking Drillカード

<授業実践>

実践 1

1 単元(題材・主題)名 「Multi+1 夏休み」 (第2学年・1学期)

2 本単元(題材・主題)及び本時について

本題材は、これまでに習った過去形・現在形・未来形を用いて、時制に焦点を当てながら昨年の夏休みにしたことや今年の夏休みをしたいこと、する予定になっていることをテーマとした英作文が扱われている。また、本題材の学習活動は三つの段階(Hop・Step・Jump)に分けられている。Hopでは、本題材のモデル文の内容を理解。Stepでは、モデル文の話の組み立てを理解し、自身の英作文の組み立てを考え、与えられた文に続けて4文以上の英作文を作成する。Jumpでは、英作文を発表し合い、質問例を参考に英作文について質問し合う活動となっている。

本時では、教科書のStepの段階の学習を、2年のUnit 3までに習った過去形・現在形・未来形の時制に焦点を当てながら、子どもの興味・関心を高めるための「Who Is He/She?」という「友達当てクイズ」にテーマを変えて行った。クイズ作りを始める前に、人間関係に配慮しながらクイズ作りを共同で行う4人で1グループを作る。次に、クイズ作りに使えるモデル文で作られたSpeaking Drillを活用して、クイズを作る上で必要な情報を友達から集める。友達から集めた情報をもとにSpeaking Drillを活用してクイズを作る。

本時以降では、教科書のJumpの段階の学習を行った。具体的には、4人1グループを作ってお互いの英作文を読み合い、クイズをより良くする情報を考え、Speaking Drillの対話例を参考に英作文の書き手のワークシートに質問を書いて回す。その後、書き手はSpeaking Drillの対話例を参考にその質問を読み、必要な英文を考え、自分の英作文に書き足すことができるようにした。その後、ALTにチェックしてもらった自分の英作文の清書をし、クイズ発表をしたり、作品集にしてお互いのクイズを見合ったりした後、活動の振り返りを行った。

3 授業の実際

(1) 【Warm-up : Speaking Drillを活用してクイズ作りの情報収集ができるようにする】

教師の後についてSpeaking Drillのモデル文をSpeaking Drill(図2)を見ながら対話練習した。その後、Speaking Drillの英文の1部(図2の下線部)を変えた英文を教師の後について対話練習をし、本時のクイズ作りに必要な情報を収集する活動につながるようにした。教師の後について練習した後に、生徒同士のペアで反復練習をし、クイズ作りの情報収集ができるようにした。

A: What is your hobby?	音楽が趣味であれば下線部を
B: My hobby is <u>baseball</u> .	"music"のように自己表現させた
A: What club are you in?	
B: I'm <u>in the baseball club</u> .	
A: What do you do in the classroom?	
B: I <u>play with Ichiro</u> in the classroom.	
A: What did you do last summer?	
B: I <u>went to the Tamamura fireworks festival</u> .	
A: What are you going to do this summer?	
B: I am going to <u>go to the festival</u> , too.	
A: What do your friends call you?	
B: They call me " <u>Yama-kun</u> ".	

Speaking Drillの英文が「友達当てクイズ」のモデル文になっているため、下線部に相手の情報を入れた英文を書くことで「友達当てクイズ」の英文を作ることができる。

図2 Speaking Drill

- (2) 【Speaking Drillで身に付けた知識を活用して、友達当てクイズに必要な情報をインタビューする】
自分がインタビューをする人を決めて、Speaking Drillの英文を活用して友達当てクイズの情報収集のためのインタビューを行う。わかった情報はワークシートにメモをする (図3)。

スピーチ原稿(メモ)※Speaking Drillを使って、友達に質問して分かったことをメモしよう!

hobby → listening to music	last summer → with friend (花火)
club → tennis	this summer → "
classroom → 話す with friend	call you → Rina
	色 → 桃色、スカイブルー

図3 生徒がワークシートに書いたメモの例

- (3) 【インタビューで得た情報をもとに友達当てクイズを作る】

身に付けたSpeaking Drillの英文の一部を、インタビューで得た友達の情報に変えながら友達当てクイズを作っていく (図5)。そのときに、主語をheまたsheで書くように注意を促す (図4)。

スピーチ原稿(下書き)※Speaking Drillを見ながら、メモをもとに___の部分に気を付けながら友達当てクイズを作ろう!

(例) Who Is He/She?

His hobby is baseball. He is in the baseball club. He plays with Ichiro in the classroom. He went to the Tamamura fireworks festival with Ichiro last summer. He is going to go to the fireworks festival with Ichiro again. His friends call s him "Yama-kun".

答え・・・Taro Yamamoto (※裏面に記入)

図4 ワークシートに載せたモデル文

Who Is She?
Her hobby is listening to music. She is in the tennis club. She talks with friends in the classroom. She went to the Tamamura fireworks festival with her friends last summer. She is going to go to the fireworks festival with her friends again. Her friends call her "R○○○".

図5 生徒がメモをもとに書いたクイズ

4 考察

[手立て(2)①について]

- 「聞く・話す」活動であるSpeaking Drillを活用したことによって、下位群の生徒でもクイズの情報を得るためのインタビュー活動に意欲的に取り組むことができた。

[手立て(2)②について]

- クイズに使う情報収集のインタビュー活動では、Speaking Drillを活用し、4文以上の英文を書くためのたくさんの情報を引き出すことができたため、約9割以上の生徒が4文以上の英語クイズを作ることができた。
- 中・上位群の生徒にとっては、Speaking Drillにクイズで使える表現をもっと増やしておく、より内容の良いクイズや自分の発想をいかしたクイズを作ることができた。

[手立て(2)③について]

- 英語4文以上のクイズではあったが、クイズが簡単すぎたり難しすぎたりしているものがあつたため、クイズを作った後にSpeaking Drillを活用して4人グループで読み合って修正した方がより良い発表ができた。

実践 2

1 単元（題材）名 「Unit5 A New Language Service」 （第2学年・2学期）

2 本単元（題材）及び本時について

本題材は、一郎の母が市の始める外国人のための新しい外国語サービスについて紹介したり、外国人のために自分たちができることを提言する場面である。本単元の新出言語材料は接続詞である。生徒は単文で自分のことを紹介することには十分に慣れている。本単元のまとめの活動では、総合的な学習の時間に学習した内容を用いて、東京体験学習の予定について紹介する。その際、「もし～ならば」「～のときに」「～なので」という副詞節の表現や「～と思う」という名詞節の表現を用いることで予定をより詳しく紹介できるようになり、接続詞を学習する意義は大きい。しかし、接続詞を用いて情報を相手に伝えることは不慣れであり、理解に時間を要すると考えられる。そのため、これまで授業で取り組んできたSpeaking Drillで新出言語材料である接続詞を用いた基本文を定着させ、接続詞を用いて情報をより詳しく相手に伝えられるような表現力を身に付けさせていきたい。

本時は、Speaking Drillで身に付けた接続詞を用いた基本文を活用したり、本単元で書きためてきた東京体験学習の予定の英文を用いたりして、東京体験学習の予定の紹介文を書く。その紹介文をさらに詳しくするための情報を得るために、他班の生徒と紹介文を交換して読み、Speaking Drillを活用してさらに知りたい情報を英語で書き出し、口頭で質問する。質問をして得た情報を東京体験学習の予定の紹介文に書き足すことで紹介文の内容をより充実させることができる。Speaking Drillを基に、「聞くこと」「話すこと」で身に付けた知識や得た情報を「書くこと」につなげ、伝えたい情報を正しい英語で書くことをねらいとした。

3 授業の実際

(1) 【Warm-up: Speaking Drillの対話練習】

- ① まとめ活動に使うSpeaking Drillの英文を、黒板にセンテンスカードを提示しながら、ALTの後について読む練習をした（図6）。
- ② その後ペアになって、Speaking Drillを質問側と回答側に別れ、交代しながら1回ずつ練習した。Speaking Drillのカードをただ読むだけでなく、自分の東京体験学習の予定に合わせて自己表現しながら練習しているペアもあり、表現の定着を図った。

〈板書〉

I will go to Asakusa .	/	I will not go to Asakusa .
Will you	?	Yes , I will / No , I will not .
I will see Tokyo	when	I go to Tokyo Sky Tree .
		take pictures
		have lunch
		buy souvenirs
		walk around
		have a rest
I think that the Tokyo Trip is important because	I can	learn about Tokyo .
		be happy
		have fun
		have happy memories
		feel the city

図6 提示したセンテンスカード

(2) 【Speaking Drillで身に付けた知識を活用して英語の紹介文を書く】

My Tokyo Trip
 ① I'm going to tell you about my Tokyo trip.
 ② First, I will go to Sensoji.
 ③ Second, I will go to Tokyo Sky Tree.
 ④ I think that our Tokyo trip is important.

4文

図7 生徒が書いた英文の例

ワークシートのモデル文を参考にしながら、Speaking Drillで身に付けた表現を活用して英語の紹介文を作成している(図7)。



図8 Speaking Drillの活用

使う英語の表現が分からずに紹介文が作成できない生徒にはモデル文以外にSpeaking Drillを見せながら作成させた(図8)。

(3) 【友達と紹介文を交換して読み、さらに知りたい情報についての質問を考えて書く】



図9 読んで質問を書く

疑問詞を用いる質問の定着が不十分であったため、予定をWill you ~?というYes / Noで答える形式の質問をする生徒が多かった(図9)。

(4) 【質問し、その答えを聞き取りメモする】



図10 質問し、聞いて書く (図10)

相手に質問して聞いた答えをワークシートに書く活動をお互いにし、紹介文に用いる情報を増やし合った。

(5) 【得た情報を基に英文を書き足す】

My Tokyo Trip
 ① I'm going to tell you about my Tokyo trip.
 ② First, I will go to Sensoji.
 ③ I will go to Nakamise Street.
 ④ I will buy souvenirs when I get there.
 ⑤ Second, I will go to Tokyo Sky Tree.
 ⑥ I will take pictures if I see a TV talent.
 ⑦ I think that our Tokyo trip is important because I can learn about Tokyo.

7文

質問して得た情報をもとに英文を書き足し、紹介文の情報量を増やすことができた(図11)。

図11 生徒が書き足した紹介文

4 考察

[手立て(2)①について]

- Speaking Drillの対話練習で、単元のまとめの活動で活用できる基本文を繰り返し使ってきた結果、基本文を正しく活用して東京体験学習の紹介文を書ける生徒が多かった。

[手立て(2)②について]

- Speaking Drillを用いた帯活動の中で、ヒントを用いて基本文を言い換える活動を行ったことは、東京体験学習の紹介文を書くときの自己表現力を高めることにつながった。

[手立て(2)③について]

- Speaking Drillで身に付けた知識を活用して、お互いの東京体験学習の予定の紹介文についてさらに知りたいことを質問し合い、情報量を増やすことができた。
- 東京体験学習の予定についての紹介文を読み合っ、さらに知りたい情報を疑問詞(5W1H)を用いて質問する生徒が少なかったため、今後、疑問詞の疑問文を使うことが定着していくようにSpeaking Drillの対話の内容を工夫していく必要がある。
- 東京体験学習の予定の紹介文を読み合っ、さらに知りたい情報を英語で書いてから口頭で質問させたために書く量が増えてしまい、情報量を増やす活動に時間がかかりすぎてしまったため、情報量を増やす活動では、聞き取った内容をメモする程度で口頭で質問し合う方がよい。